

# 日本画部門

審査員：竹内 浩一 先生

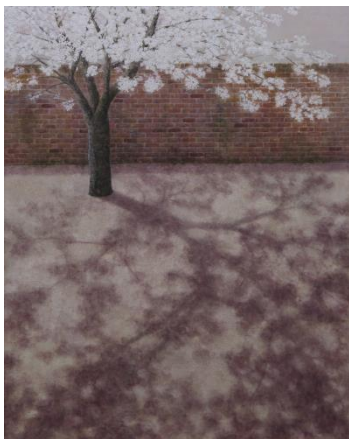
京都府出身 京都市右京区在住

1977年 第4回山種美術館賞展 大賞受賞  
1979年 第11回日展 特選受賞  
1991年 第4回京都美術文化賞 受賞  
1996年 第9回MOA美術館 岡田茂吉大賞展 大賞受賞  
2010年 京都市文化功労賞 受賞  
現 在 一般財団法人日本中国文化交流協会 常任委員  
山種美術館 理事

## <総 評>

古来、日本画は限定された基底材で描かれてきた。第二次世界大戦以後、人造絵具がつくられ現代美術の影響を受け多種多様の表現が生れている。私感だが人造絵具を塗りすぎると発色がわるくなり顔料の美しさが損なってしまう。

今年の彦根市展をみて、自然を写す心情から絵具が使われていて好感を持った。精神性や象徴性も加わってきたように思った。



### ■ 市展賞 ■

「桜陽」 志摩 まゆみ

レンガ壁と一木に咲く淡い桜花。春の光に柔らかい桜の影をつくる。ノスタルジックに見えるのは何故だろう。情愛あふれる一景に感動を覚える。



■ 特選 ■ <近江同盟新聞社賞>  
「朝ぼらけの伊吹」 小澤 弘

伊吹山は新幹線に乗ればだれもみている。この絵は違う。雪景色だろうか。ダイナミックに絵具を動かしている。独特の筆づかいから個性美が生れた。



■ 特選 ■ <BBC びわ湖放送賞>  
「堤を下りると」 本田 充

郷愁を感じる家並をセピア色のトーンにおさえ、曆をみつめる佇まいに無常が宿っている。



■ 特選 ■ <朝日新聞社賞>  
「白藤」 長崎 典子

垂れる白い数輪の藤の花。美しいだけではない。作者自身の心に問いかけた情愛が伝わってくる。



■ 無鑑査奨励賞 ■  
「菩提寺成菩提院」 谷村 純子

古寺の山門から中門のゆるやかな石畳を念ずるように描いているようにみえる。山門の木に刻まれた模様。迫る木々。置かれた二足の草履が謎めいて、思慮深い作品になった。

# 日本画部門

展示場所：第1・2研修室（メッセホール棟 2階）

No.	賞	題 名	氏 名	備 考
1		実石榴	杉本 恵美子	
2		明	北村 妙子	
3		汀の柳	山田 政一	
4		たまとまる	堀居 千恵子	
5		クリスマスローズ	今居 桂子	
6		石畳（けやき並木）Ⅱ	伊藤 恵朗 (いとう けいろう)	
7	佳 作	余呉の郷	松居 直子	
8		薪木	大村 千代子	
9		鞍馬山参道	北村 幸子	
10		木蓮	佐々木 美子	
11		晩秋	山岡 勝	
12		鳶	石原 みち子	
13		春の庭	成内 節子	
14		一夜華	小泉 英子	
15		競演	竹内 歌子	
16		夏の終わりに	早崎 清美	
17		夕景	荒居 年子	
18		菜の花	長谷川 祐子	
19		ルドベキア	馬場 初代	
20	特 選	堤を下りると	本田 充	BBCびわ湖放送賞
21	特 選	朝ぼらけの伊吹	小澤 弘	近江同盟新聞社賞
22	市 展 賞	桜陽	志摩 まゆみ	
23		春がきた	杉本 ミサエ	
24		葡萄	牧野 昌代	
25		ふき	平松 越	
26		あけび	三上 信子	
27		枇杷	瀧沢 千代子	
28		湖畔の晩秋	竹田 建行	
29		街の一隅（散歩道より）	小島 充子	

No.	賞	題名	氏名	備考
30		思い出の風景	澤邊 雅子	
31		秋色	丸山 リツ子	
32		湖北	高田 昭子	
33		清浄	立江 恵美	無鑑査
34		菜の花	曾我 光博	無鑑査
35	無鑑査奨励賞	菩提寺成菩提院	谷村 純子	無鑑査
36	特選	白藤	長崎 典子	朝日新聞社賞
37	佳作	秋草	長谷川 みよ	
38		紅葉	熊谷 滋美	無鑑査
39		家の足跡	眞野 康光	委員
40		りんご	寺村 晴雄	委員
41		普賢	竹内 浩一	審査員
42		春未だ浅く	深田 澄江	委員

